

令和5年度 大分っ子『未来創造プロジェクト』実践交流会

目的

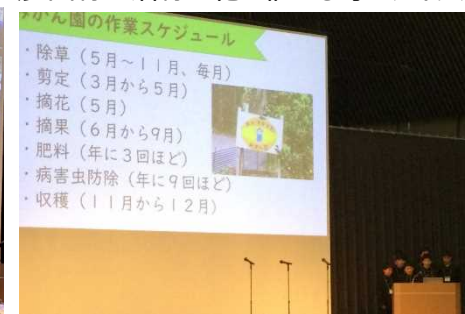
- ①地域・社会や産業界と連携
- ②地域よさを生かした商品開発等、行動を伴った探究的・協働的な学習
- ③自らの生活や行動に生かす

期日 場所

令和6年2月3日(土)
別府国際コンベンションセンター
(ビーコンプラザ) レセプションホール

(1) 実践校によるステージ発表(6校)

- ①中津市立本耶馬溪中学校 地域の活性化のため、本耶馬溪支所や商工会と連携
石ころアート等を作成してのPR活動や「やばけいばやし」を継承する活動を実施
- ②別府市立中部中学校 地域貢献のため、保育園、交番、自治体等と連携
生徒が主体となって、地域清掃や交通安全呼びかけ等を実施
- ③臼杵市立野津中学校 地域を元気づけるため、さつまいも生産者、パン販売店、グリーンツーリズムと連携
「ほんまもん農産物」PR活動や特産品を使った弁当、オリジナルパン等を販売
- ④佐伯市立米水津中学校 地域の魅力発見のため、みかんの生産者と連携
近隣のみかん園での活動を持続可能な取組にするための活動を実施
- ⑤竹田市立直入中学校 地域の魅力を発信するため、九州アルプス商工会等と連携
オリジナルのデジタルパンフレットを作成し、県外で配布してPR活動を実施
- ⑥日田市立大明中学校 地域復興のため、大肥の郷まちづくり会議、日田市まちづくり推進課等と連携
日田彦山線の沿線に花を植える等のアイデアの実施に向けて活動



実践校と内容等

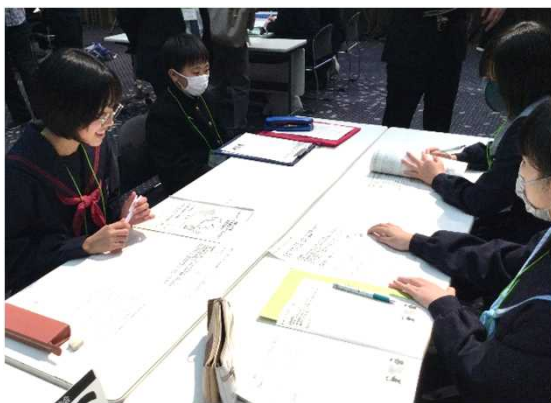
(2) 取組や制作物等のPRタイム

ステージ発表だけでは伝えきれなかった取組の詳細や実際の制作物を各ブースに準備。参加者からの質問にも答えながら、学校ごとにPRを行った。



(3) グループディスカッションの様子と生徒の感想「地域・社会の一員として次に私ができること、したいこと」

学校の枠を超えて、テーマに沿って意見を交流。



■自分達の市だけでは見つけれなかったことを他の市から学ぶことができました。課題を解決するには、まだまだ活動が足りないけれど、解決の第一歩として新しいことにも挑戦するということを踏み出せたかなと思いました。

■中学生として町について考えたり、活動したりしたことを自分達の町に貢献できるようにつなげたいと思いました。

■活動をすることで、自分達が住んでいる町などを知れて、もっと好きになっていることが分かりました。

■グループディスカッションなどで初対面の人と熱く話せたことが自分の成長につながっていると思った。こういう機会は学校の成長や個人の成長につながるから、たくさんあって欲しいし、あったらぜひ参加したいと思った。

中津市立本耶馬溪中学校

【取組紹介】

本耶馬溪町には、青の洞門や羅漢寺など歴史ある観光名所があり、春には青いネモフィラが咲き誇ります。しかし、地域の人口減少や高齢化、空き家の増加が進んでいる現状があります。そこで、観光客を呼び込んで町を活性化するにはどのような取り組みが必要なのかを考えました。本耶馬溪支所や地域の商工会女性部の方などと連携しながら、全校生徒一丸になり、地域貢献活動に取り組んでいます。



別府市立中部中学校

【取組紹介】

中部中学校は「地域とともにある学校」を目指し、地域の先生の授業であるドリームスクールを教育課程に位置付けています。特に、地域とのつながりを大切にした「別府学」では、これまでも自分達にできることは何かを考え行動してきました。

昨年度は木製品を作成し、販売した収益金を被災地へ送ったり、老人ホームでの交流を行ったりしました。今年度もみんなで意見を出し合い、保育、校内環境整備、地域清掃、読み聞かせ、学習支援、交通安全などの6つのグループでボランティア活動を行いました。



臼杵市立野津中学校

【取組紹介】

私たちは探究課題を「野津町の魅力再発見で未来を創る」と設定しました。学習を進めていく中で、野津町では地域のために活動している方々がたくさんいることやその思いを知りました。そして、一緒に地域を元気づけることは何かできないだろうかと考えました。野津町特産物の「ほんまもん農産物」のPR活動やさつまいも生産者、牛乳・パンの販売店、吉四六さん村グリーンツーリズムの方々との取組を通して、私たちが学んだことを報告します。



佐伯市立米水津中学校

【取組紹介】

探究課題を「地域産業を未来につなげよう」と設定し、「米水津の魅力」を多くの人に知ってもらうことも必要であると考えました。また、「持続可能」な取り組みになることも念頭に置きながら活動に取り組んできました。

今年度は「農業」に焦点を置いた取り組みを行いました。本校のみかん園の活動をよりよくするために、農家での作業体験や学習サポーターや農家との交流から、農業の魅力について知ることができています。

今後は、この魅力をどのような方法で発信していくかが課題です。



竹田市立直入中学校

【取組紹介】

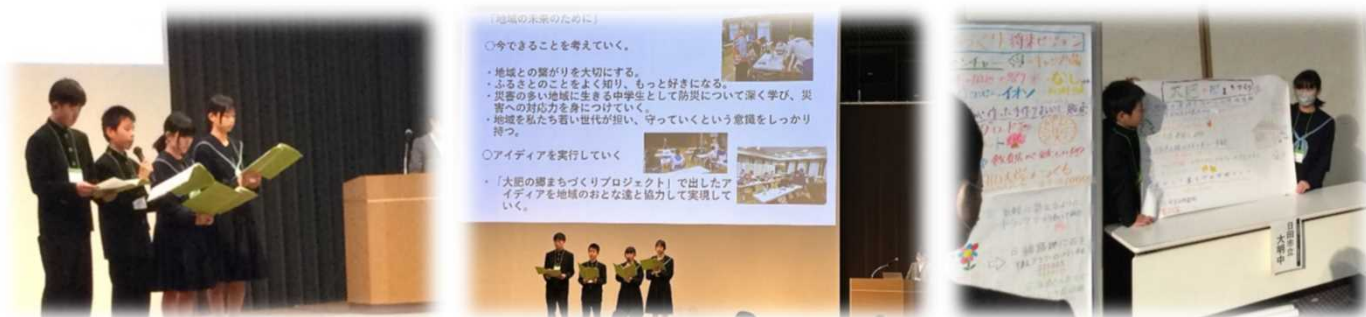
私たちの住む直入町は、日本一の炭酸泉で有名な長湯温泉があり、人も優しくおいしい食べ物もたくさんある素敵な町です。しかし、人口は年々減少し、少し寂しくも感じていました。そこで、9月初旬に行った職場体験の中で、私たちは地域の方に「これからの直入をどうしていきたいのか」を質問しました。地域の方の思いをもとに、地域の商工会議所の方とともに「どうすれば直入の良さを知ってもらえるか」という課題を設定し、直入のPR活動に取り組んでいるところです。今日は、修学旅行での観光大使活動を報告します。



日田市立大明中学校

【取組紹介】

本校には、地域との交流や繋がりを大切にした取り組みがあります。その地域が豪雨の被害を受けました。私たちにできることはないか考えるきっかけとなりました。豪雨被害からの復興と、ふるさとの未来を繋いでいくために発足した「大肥の郷まちづくり将来ビジョン」では、地域の未来を真剣に考え、地域で採れた作物を使った商品開発やJR沿線に季節の花を植えるなど、画期的なアイデアを出し合いました。今年度はその中で「ひまわりプロジェクト」に取り組みました。今も地域とともにビジョンの実現を目指しています。



グループディスカッション



【テーマ】

地域・社会の一員として 次に私ができること、したいこと

～地域課題の解決に向けて、地域・社会が連携して
取り組んだ探究的な学習を踏まえて～

